

沖縄 首里城公園



料金のご案内

■入館料金 ※車イスでもご見学いただけます。

	大人	中人 (高校生)	小人 (小・中学生)	6歳未満
一般	820円	620円	310円	
団体	660円	490円	250円	無料
年間バスポート	1,640円	1,240円	620円	

●正殿、南殿・番所、書院・鎖之間、黄金御殿・寄満・近習詰所、奥書院、北殿、奉神門のある区域は有料ですが、それ以外の場所への入園は無料となります。

●団体は20名様以上

●モノレール(愛称:ゆいレール)のフリー乗車券(一日券・二日券)をご利用中のお客様は、首里城公園券売所窓口にて乗車券の提示により、団体料金の適用となります。

※フリー乗車券の有効期限内において、1枚につきお一人様1回限りの割引となります。

開館時間のご案内

■開館時間

- 4月～ 6月(8:30～19:00) 入館券販売締切18:30
- 7月～ 9月(8:30～20:00) 入館券販売締切19:30
- 10月～ 11月(8:30～19:00) 入館券販売締切18:30
- 12月～ 3月(8:30～18:00) 入館券販売締切17:30

■休館日

維持管理上、毎年7月の第一水曜日とその翌日を休館日とさせていただきます。

交通のご案内

1.路線バス

○市内線 ①④⑬番・市外線 ④⑥番に乗りし、首里城公園入口のバス停にて下車、徒歩約5分で守礼門に到着。

○首里城下町線 ⑦⑧番に乗りし、首里城前にて下車。徒歩1分で守礼門前に到着。

○市内線 ⑨⑬番・市外線 ②⑤⑨⑬番に乗りし、山川バス停にて下車、徒歩15分で守礼門に到着。

2.観光バス・乗用車・タクシー

バス・乗用車・タクシーは、首里社館(首里城公園レストセンター)地下駐車場にゆとりがある場合、係員の誘導により駐車することができます。

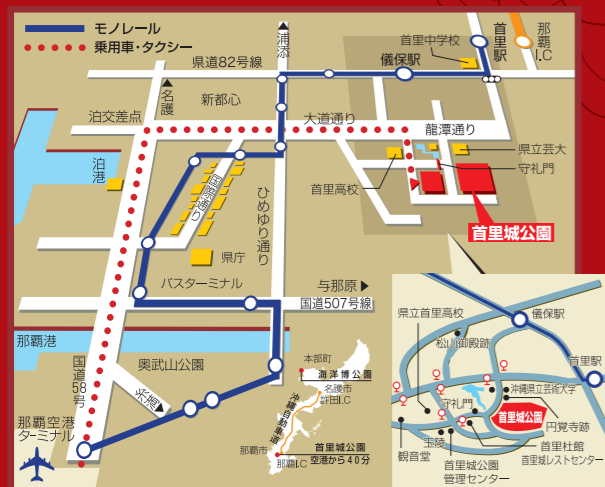
■首里社館駐車場ご利用料金 ■首里社館駐車場開館時間

- | | |
|--------------------------------|-----------------------|
| ● 大型バス 960円
(回数券11回分9,600円) | ● 4月～ 6月 8:00～20:00 |
| ● 小型車 320円
(回数券11回分3,200円) | ● 7月～ 9月 8:00～21:00 |
| | ● 10月～ 11月 8:00～20:00 |
| | ● 12月～ 3月 8:00～19:00 |

※尚、駐車場の予約は修学旅行団体に限ります。(バスのみ)

3.モノレール(ゆいレール)

首里駅または儀保駅にて下車。徒歩約15分で守礼門に到着。



お問い合わせ

首里城公園管理センター

〒903-0815 沖縄県那覇市首里金城町1丁目2番地

TEL098-886-2020(代) FAX098-886-2022

http://oki-park.jp/shurijo/

(15.03.00.000部)

めんそーれ首里城へ 琉球王国の栄華の証を訪ねる。

首里城公園見学コース

- ← 一般コース(約1時間30分) 基本順路
- ← バリアフリーコース(約1時間20分) 基本順路
- ← その他園内施設、周辺地域文化財等

●車イスと杖・ベビーカーの貸出しについて

首里社館と奉神門において貸出しを行っています(無料)。お近くの係員までお申し付け下さい。

●コインロッカーについて

首里社館と広福門にコインロッカーが設置されています(無料)。

首里城公園有料区域観覧のご案内

広福門券売所にて入館券をお求めください。

有料区域となる施設 ●奉神門(改札)、南殿・番所、書院・鎖之間、黄金御殿・寄満・近習詰所、奥書院、正殿、北殿



周辺の文化財

首里城を抱くように
古都の風雅を今に
伝える文化財を巡る



守礼門 (しゆれいもん)
尚清王時代(1527～1555)に創建。扁額「守禮之邦」とは、「琉球は礼節を重んずる国である」という意味。



(そのひやんうたさいしもん)
園比屋武御嶽石門
国王が出御の時、道中の安泰をこの石門前で祈願した。※世界遺産



玉陵 (たまうどうん)
第二尚氏王統の陵墓。3基の墓室に歴代国王と家族が眠る。※世界遺産



龍潭 (りゆうたん)
冊封使の進言によって、1427年に造成された人工池。

■首里社館駐車場開館時間

- 4月～ 6月 8:00～20:00
- 7月～ 9月 8:00～21:00
- 10月～ 11月 8:00～20:00
- 12月～ 3月 8:00～19:00

■首里社館駐車場ご利用料金

- 大型バス 960円(回数券11回分9,600円)
- 小型車 320円(回数券11回分3,200円)

※尚、駐車場の予約は修学旅行団体に限ります。(バスのみ)



円覚寺総門と放生橋 (げんかくじようぶし)
王族の菩提寺。総門裏の放生橋のレリーフは国指定重要文化財。



弁財天堂と円鑑池 (べんさいてんどう) (えんかんち)
朝鮮王から贈られた方冊藏経を納めるために建造された。

※首里城跡は、2000年12月(琉球王国のグスク及び関連遺産群として)ユネスコの世界遺産に登録されました。

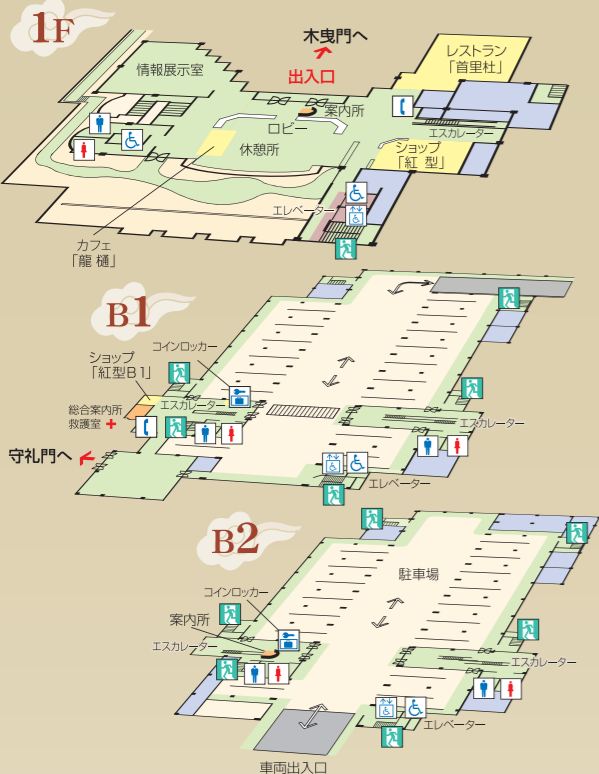
首里杜館

(すいむいかん)

公園内をはじめ、首里城周辺の文化財などに関する情報を提供しております。売店やレストランにておつろぎいただけます。



オリジナルグッズ
ショップ「紅型」では、代表的な伝統土産品はもちろん、Tシャツや文具類などオリジナル商品も充実。



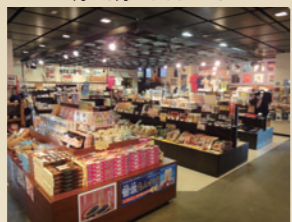
■レストラン「首里杜」営業時間
通年 10:00~17:00 (ラストオーダー 16:30)

■ショップ「紅型」「紅型B1」営業時間
通年 8:00~18:00

■カフェ「龍樋」営業時間
4月~11月 9:00~19:00
12月~3月 10:00~18:30



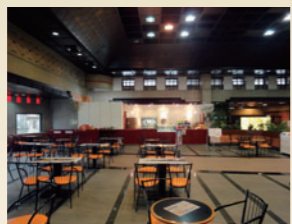
情報展示室



ショップ「紅型」



レストラン「首里杜」



カフェ「龍樋」



首里城正殿(しゅりじょうせいいでん)
約500年にわたり琉球王国の居城として政治・経済・文化の中心でした。
※首里城正殿の壁等の彩色塗装には、桐油が塗られています。なお、下地の一部は漆です。



正殿大龍柱(呼形) 正殿大龍柱(阿形)
高さ4.1m(龍柱3.1m/台座1m) 台座:琉球石灰岩
材質:細粒砂岩(寺那国島産)

首里城の創建は14世紀頃といわれていますが、詳しいことはわかっていません。その後、1406年に尚巴志が琉球王国支配のための居城として以来、1879年、最後の国王・尚泰が明治政府に明け渡すまで、約500年にわたって琉球王国の政治・外交・文化の中心として栄華を誇りました。首里城には中国や日本、東南アジアなどとの交易から様々な文物がもたらされ、漆器、染織物、陶器、音楽など、琉球独特の文化が花開いたのです。

1945年の沖縄戦で灰燼に帰した首里城正殿は、1992年、沖縄の本土復帰20周年を記念して18世紀の首里城をモデルとして復元されました。鮮やかな朱色に彩られたその姿は、王国の歴史・文化の息吹を伝える殿堂であり、沖縄のシンボルそのものといえるでしょう。

鮮やかな朱色に彩られた
琉球王国の舞台、首里城
琉球時代の文化が現代によみがえる

琉球王国の栄華を物語る世界遺産

琉球王国の政治、外交、文化の中心地として威容を誇った首里城。その中国と日本の築城文化を融合した独特の建築様式や石組み技術には高い文化的・歴史的価値があるとされ、2000年12月日本では、11番目に首里城は世界文化遺産に登録されました。

正殿への道



1 歓会門(かんかいもん)
首里城の正門。中国皇帝の使者“冊封使”など、訪れる人への歓迎の意を込めて名前がつけられました。別名「あまへ御門」。



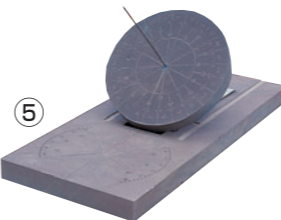
2 瑞泉門(すいせんもん)
瑞泉とは、「立派なめでたい泉」という意味です。門の前にある湧き水「龍樋」にちなんで名付けられました。別名「ひかわ御門」。



3 龍樋(りゅうひ)
瑞泉門の手前にある湧き水。国王一族の大切な飲料水で、「冊封使」が訪れた際には宿泊先の「天使館」まで届けられました。



4 漏刻門(ろうこくもん)
櫓の中の水時計で時刻を計ったことで名付けられた門。別名「かご居せ御門」。身分の高い役人も国王に敬意を表してここで籠を降りました。



5 日影台(ひえいだい)
「漏刻門」の正面に設置されている日時計。1739年から使われ始めたといわれ、1879年の廃藩置県まで王国の時を刻み続けました。



6 供屋(ともや)
古絵図などの資料に基づいて復元。往時の具体的な使われ方はわかっていません。



7 広福門(こうふくもん)
東側には戸籍の管理をする「大与座」、西側には寺や神社を管理する「寺社座」がありました。別名「長御門」。現在は券売所。



8 万国津梁の鐘(ばんこくしんりょうのかね)
1458年に首里城正殿に掛けられた鐘。海洋貿易で栄えた琉球王国の気概を示す銘文で有名。(レプリカ)



9 京の内(きょうのうち)
城内最大の祭祀空間。神聖な御嶽が数多くあり、「聞得大君」などの神女により王家繁栄、航海安全、五穀豊穡が祈られました。



10 奉神門(ほうしんもん)
「御庭」へ続く最後の門。3つの入り口があり、中央の門は国王や身分の高い人だけが通れる門でした。別名「君誇御門」。



11 系図座(けいずざ)
城郭の西側に作られた展望台で、ここからは那覇港の様子を望むことが出来ました。首里城内をはじめ、那覇市街地や慶良間諸島が一望できます。



12 首里森御嶽(すいむいとうき)
城内にある礼拝所のひとつで、琉球最古の歌謡集「おもろさうし」に数多く詠まれています。神話には『神が作られた聖地である』と記されています。



13 系図座・用物座(けいずざ・ようぶつざ)
「系図座」は土族の家系図の管理や王府資料の編集、「用物座」は城内で使う物品や資料等の管理をしていました。現在は休憩所、情報案内所。



14 木曳門(こびきもん)
王朝時代、首里城の建物の建設や修理、石積修復工事の資材搬入時に使用され、普段は石を詰めて閉じられていました。現在は見学ルートの入口。